宮崎市

第１回「宮崎市新庁舎建設に関する専門会議（R4.7.21）」において各委員からいただいた意見の概要

参考資料18-1

基本理念 ・ 方針	・庁舎には、市民個人や企業の情報が多くあるので、基本方針の重点項目「市民の安全・安心を守る庁舎」において、情報セキュリティについて触れるとよいと思う。 ・人口推計の分かる20～30年先と庁舎の耐用年数80年には間があるが、80年後も対応できる庁舎と分かるような将来像の表記を検討してほしい。
庁舎規模	・宮崎市では、総合支所や地域センター、地域事務所があり、地域におけるサービスのあり方は、ある程度整理されていると思う。 ・10年後の2030年に、2050年の職員数を想定して庁舎建設することは理解するが、手狭感がないようにした方がよいと思う。 ・テレワークが28%は可能という話は現時点のもので、将来は、もっと高い割合を見込めると思う. ・庁舎規模は、コンパクト化を見据え、将来の市全体のサービスがどうなるかを考える必要があると思う。特に支所等の配置や本庁舎からのアウトソーシングなどによっても、本庁舎の規模設定が変わってくると思う。 ・土木の現場の経験から、外勤業務はテレワーク不可能なものと思う。 ・情報セキュリティに関してはインフラを整備中であろうが、インターネット環境でのセキュリティ対策を図っていく必要がある。 ・デジタル化に向けたインフラが整わないと、オンラインでどの程度窓口が減らせるかわからないので、ロードマップを作成する必要がある。
現地・中央公園における配置計画案	・分棟はパフォーマンスの低下が有り得るほか非効率でもある。メリットは将来職員数が減少した際には１棟に集約し、片方は活用することが想定できるが、戦略的経営的視点が必要であると思う。 ・1棟か2棟かについてはいずれも一長一短あり、プラン次第だが、2棟でも渡り廊下などでつながっていれば、不便はないと思う。 ・現地の場合、大淀河畔を見渡せる景観の良さを考えると、市民プラザ横に立駐を建てることは、現地の立地メリットを生かせないのではないかと思う。 ・中央公園の場合、将来の市有地の有効活用・稼ぐ庁舎という視点も踏まえて、科学技術館と庁舎の複合化や、現地の跡地利用をセットで考える必要があると思う。 ・市民サービスの利便性と、立地の特性を生かし、宮崎市が美しいところであることを示せるような、自慢できる庁舎を最大限の努力で建設いただきたい。 ・近接した二棟建てであれば、問題はないと思う。 ・大淀川は河川空間の利用が多い河川であり、河川敷を歩く人などが多く、現地なら、空間利用との調和・景観への配慮などを、粗くてもいいので示す必要があると思う。 ・中央公園の場合、公園や広場など、失われるものが多いので、現地の跡地利用をセットで示す必要があり、30年先も美しい宮崎が失われないよう示すことが今後の判断材料になると思う。 ・1棟でも分棟でも大した差はない。分棟は、将来の活用がしやすいメリットがあると思う。 ・建設場所周辺との関係性について、もう少し説明があるといいと思う。 ・立地の特性を生かして建物の価値を高め、目的がなくても人が集まるような庁舎とすることも考えるといいと思う。 ・駐車場台数は、カーボンニュートラルの観点からも、公共交通の利用促進の取組が進めば不要となっていくと思われるので、将来、他の用途で活用できるようにすることも考える必要があると思う。
防災対策 交通対策	・時代の流れから庁舎は免震になるだろう。庁舎同士はエキスパンションジョイントを用いて通路でつなげば問題ない。 ・中央公園は砂地盤であり地盤改良が必要。 ・工法は地盤状況の詳細や建物の規模が決まらないとわからないが、全体コストの中で基礎工事費の占める割合は重要なポイント。 ・道路の液状化は避難に大きく影響する。駅周辺は道路が液状化し、道路が30センチ位浮き沈みするので、長い期間、庁舎へアクセスする道が限られ、機能が果たせない可能性がある。 ・ある想定のもと、液状化しそうなルートを可視化していくと、判断材料のひとつになるのではないかと思う。 ・緊急時の輸送手段について、どこを輸送道路にするかで対策を検討し、費用に盛り込む必要があると思う。 ・日常交通への影響も考える必要があると思う。 ・緊急輸送としては、海上輸送、河川輸送も考えられると思う。 ・公共交通機関の利用、現状はわかったが、将来どうしたいのかを示してほしい。
評価項目	・庁舎で働く人の視点で、どのように生産性・パフォーマンスを向上させるかをスキームとして考えてほしい。 ・マーケットサウンディングの取組は重要。民間の視点は事業費にも影響すると思う。 ・評価項目には、まちづくりへの影響をもっと詳しく入れる必要があると思う。 ・景観への配慮についての項目もあるとよい。 ・移転の場合、現地をどう活用するか、行政が中心市街地を含めたエリアとしての発展イメージを示してほしい。 ・庁舎の防災機能だけでなく、住民サービスを前提にした防災の考え方が必要と思う。 ・発災後。水は引き電気も2、3日で復旧するが、行政サービスは庁舎に行かないと受けられず、道路が壊れていては行くことができない。そういったところも想定して評価してほしい。 ・まちづくりへの影響やコンパクトシティ、ネットワークなどの視点は必要と思う。 ・防災の観点からは分散が悪いわけではなく、重要書類は高台に置くなどの考え方もあってよいと思う。 ・機能が分散された際の機能の維持は、インフラの整備が後押しすることが必要。 ・電源の確保やライフラインの確保。インフラの確保、通信の維持などが検討課題と思う。

宮崎市

第２回「宮崎市新庁舎建設に関する専門会議（R4.10.11）」において各委員からいただいた意見の概要

参考資料18-2

庁舎規模	・現地業務等を含めて、DXにより業務がどう進展していくのか、全般的にはこれから検討していくことになるものと理解している。 ・高齢者など、オンラインについていけない方もいるので、市民サービスの平等な提供を考えると、総合支所等の充実も必要があると思う。 ・DXによる総合支所等の業務の変化の、新庁舎面積への影響について考慮する必要があると思う。 ・現地業務は、災害時もDXによる効率化が図られるが、内容をより高度化するとともに、本庁と総合支所等が情報を共有することにより、復旧までの時間短縮や手続きの迅速化が図られると思う。 ・DXも踏まえた職員の参集のあり方については、スマート化によりどの程度総合支所等に人を配置していくのか検討していくといい。 ・現地業務のDXの内容は、宮崎市の土木関係の実情やこれからの取組に乖離はないのか。総合支所等のスペースがどうなるかについてもみえない部分が多いので、今後、導入可能性を精査する必要があると思う。 ・職員の働き方をデジタル化し、庁内ネットワーク整備やクラウドの世界で業務ができることが必要で、市民も市役所に来なくて済む手続方法を目指すべきである。 ・DX化の一方で、サポートは必要になるので、どの程度窓口に残すかの検討も必要。
配置計画	・大雨で河川敷駐車場が冠水している場合、来庁者は少なく、河川敷駐車場を増設しなくても不都合は生じないのではないかと考えている。 ・工事期間中の駐車場や将来駐車場を550台以上確保することについては、DXにより来庁者が減ることを考えると公共交通利用への転換を進める方向に投資する方がいいと考える。 ・庁舎と公園を一体整備するとして、そこに車で来させるのか、公共交通で来れる場所にするのかを考える必要があると思う。
防災対策 交通対策	・震度6強から7を想定した液状化リスクを検討しておくことが重要。特に道路の復旧には時間を要する。 ・市中央部に大淀川が流れているため、職員の参集など、本庁舎以外に総合支所や地域センターを防災上の拠点として複数指定しておくことは、危機管理上必要。 ・交通対策には、高齢者や障がいのある方の駐車場の利用の仕方などもソフト対策に盛り込むと分かりやすい。 ・現地で松橋に立体駐車場をつくる場合、右折できず迂回が必要とのことだが、迂回分の流れを検討し交通量を説明する必要があると思う。 ・中央公園は保健所と新庁舎の間を、横断歩道のない場所で横断する人が増えると思う。自転車の学生や歩行者も多く、交通対策に盛り込む必要があると思う。 ・危機管理の観点から、参集場所等の分散は大事と考える。
事業費 評価項目	・「事業費」については、イニシャルコストだけでなく、ランニングコストの表記も必要と思う。 ・建物本体について、屋上や壁の緑化、エネルギーコストの削減などの環境への配慮など、建物本体の方向性についての表記があるといいと思う。 ・「まちづくりへの影響」において、周辺施設との連携や市民活動の視点、移転の場合の現地跡地活用など、宮崎市の展望がみえる欄があるといいと思う。 ・相対比較であると理解している。「ライフライン評価」の「水」について、同じ評価で表記が異なっているので、検討する必要があると思う。 ・防災について、対策して評価することは問題ない。 ・「アクセスの容易性」の「公共交通」について、「バス停に至近」⇒「徒歩〇分」という表現の方が感覚的に分かりやすいと思う。 ・「アクセス交通増加の影響」について、同様の表記で評価が違うものは、違いがわかりやすい表現にする必要があると思う。

宮崎市

第３回「宮崎市新庁舎建設に関する専門会議（R4.10.24）」において各委員からいただいた意見の概要

参考資料18-3

今後の課題 について	・現庁舎敷地に新庁舎を建設する場合、オープンスペースは、庁舎整備と一体的な整備を考えていくことになると思われるので、市民に分かりやすく説明できるような形にするといいと思う。 ・現庁舎敷地で新庁舎を建設する場合でも、建物が建つ場所以外は活用できるのではないかと思う。 ・跡地利用の方向性に関しては、費用面を考慮する必要はあると思うが、夢がある方がいいと考える市民もいると思うので、検討にあたっては、工夫をしてもらいたい。
災害対応 拠点機能 について	・市民の安心安全のため、市が責任をもってやっていくことが必要であり、その拠点として崩壊しないことが大切であると思う。 ・災害発生時に、実働する職員を本庁舎以外に配置し、本庁舎には国や県との連絡調整等をする職員を配置するという、複数拠点での体制整備の取組は、リスク分散と迅速な対応のためにしっかりやっていくべきと考える。 ・台風や豪雨など、ある程度予見できる災害は組立ができるが、地震など予期せぬ災害時に、職員が参集して活動できるかが最も重要になる。 ・どちらの敷地でも、災害への脆弱性を考慮すると似たような評価になり、決定的な違いは見えてこない。 ・インフラの復旧は重要と考えるが、データの保管についても整理が必要と考えるので、拠点の分散化は必要と考える。 ・業務に必要なパソコンを持ち帰れるような物理的な環境やクラウド化、ネットワークのセキュリティなどの検討を進め、災害が起きた際に、業務に必要なパソコンで対応できるよう備えることが重要である。
事業費 について	・事業費には、今回示されていない、緑化などの環境負荷を抑える対策などの費用は、別途必要となる可能性もあるといった補足の説明をしておくといいと考える。
比較資料案 について	・職員推計やまちづくりについては、20～30年先までの議論は、現状の推計で概ねできるが、80年先となると建物の耐震性等の防災面など限定的にならざるを得ない。 ・80年先の見通しとしては、防災に関しては、再現期間の長い最大規模のL2地震・津波や河川氾濫を前提に、被害を最小限にできる候補地と周辺整備について、ハードとソフトの両面からの検討が重要となる。 ・時間軸の読み方は、それぞれの専門分野で全く違う発想があり、人口問題などからは、将来の行政サービスは縮小し、スペースが余るのではないかと考えている。 ・事業費も物価変動があり得るので、誤解のない形で説明した方がいいと考える。 ・周辺施設との連携について、中央公園の場合は、都市公園の一部を庁舎にすることになるので、市民に対して、都市公園としてのイメージや機能を失わない、景観を損なわないようにするための検討をしていくという説明を、併せてすることが必要になると思う。 ・この会議で議論することと、次のステップで議論することとは、しっかり分ける必要があり、建物や景観、跡地活用などは、次の議論になると思う。 ・今回のメンバーの専門領域を超えた部分の議論については、引き続き市側で検討し、補完してもらいたい。

宮崎市

参考資料18-4

「宮崎市新庁舎建設に関する専門会議」の委員構成

委員名	所属等
桑野　斉	宮崎大学　地域資源創成学部　学部長
村上　啓介	宮崎大学　副学長　防災環境研究センター教授
松竹　昭彦	宮崎県建築士会　会長
尾野　薫	宮崎大学　地域資源創成学部　講師
若林　卓也	宮崎市CIO補佐官 総務部参事（デジタル化推進担当）